

本祭会場を表町公園や市街地で

第三十六回田舎祭り運営実行委員会承認される

第三十六回田舎まつり運営実行委員会総会（運営委員長／藤原正幸町長、実行委員長／寺坂文秀商工会長）が三月二十五日、総合福祉センターで行われ、本年度の祭りの日程や会場などが決定しました。

第一回から本祭を厚真ダム広場で開催してきましたが、会場が遠いため町民が気軽に足を運ぶことができないなどの団体からの要望を受けて、同実行委員会では、自治会などの意見を取りまとめるなど、見直しを進めてきました。また、併せて祭りの内容についても幹事会（池川義厚幹事長）を設け検討してきました。

総会では、前夜祭を六月二十一日（土）に、本祭を二十二日（日）とする日程で、会場を前夜祭・本祭とも表町公園・厚真市街地で行うことが承認。祭りの内容についても、新しい催しが盛りだくさんで、前



出席者にあいさつをする運営委員長の藤原町長

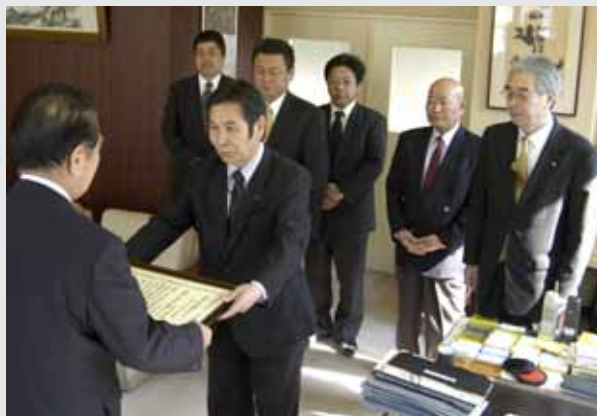
夜祭は、町民参加のカラオケ大会、ビンゴゲーム、子ども遊びの広場などでファイナーレは花火大会。本祭では、表町公園でキャラクターショー、市街地では和太鼓フェスティバルやフリーマーケットなど。

運営委員長の藤原町長は総会閉会にあたり「田舎まつりは町民の祭り。厚真らしい祭りにし、町民が楽しめるものとなるよう、皆で頑張らしましょう」と出席者にあいさつをしていました。

道路清掃奉仕など20年 建設協会に感謝状

3月25日、役場町長室で厚真建設協会の木本宏会長に藤原町長から感謝状が手渡されました。同協会は、昭和62年から20年間にわたって厚真・上厚真市街地周辺の道路清掃奉仕や、厚真大橋の花壇整備など行い、環境保全と美化に貢献されたことに対する感謝状の贈呈。道路清掃は、歩行者が気持ちよく歩けるようにと、雪が解け汚れの目立っている道路を手作業と作業車を使い丹念に清掃。また、花壇整備は、厚真市街地の入り口である厚真大橋に色とりどりの花を植え町のイメージアップになっています。

木本会長へ町長から感謝状の贈呈



入選した桐木さんと入選したポスター



桐木由希さん（厚南中1年） 税のポスターで道知事賞に入選

「第21回全道中学生の税をテーマとしたポスター」で厚南中学校（高畑邦男校長）1年生、桐木由希さんが北海道知事賞に入選しました。

税に対して関心をもってもらうことを目的に北海道が中学生を対象に行っているもので、応募総数約6千点の中からの入選。

桐木さんは「地球を描きたかったのですが、デザインが出来上がったのはクラスでも最後の方。入選の知らせを聞いてビックリしました」と笑顔で話していました。

まちの話題

町内外の6団体（町土地改良区、町、JAとまこまい広域、室蘭開発建設部、胆振支庁、北海道土地改良事業団体連合会）で構成する、勇払東部地区地域用水対策協議会（山田英雄会長）が主催し、今年1月、町内の小中学生を対象に「自然と親しむ未来の町の風景」をテーマとしたイラストを募集したところ、122点の応募がありました。

審査の結果、次の15人の作品が、「夢いっぱい賞」や「未来に残したい厚真の風景賞」に入賞。応募のあった全作品が3月10日から30日までの間、こぶしの湯あつまロビーに展示されました。

いずれの作品も自然にあふれた厚真を描いた力作で、同施設を訪れた方々は、子どもたちの夢のある作品に感じていました。

受賞者は次のとおり
高田智知(上小1年)、
吉田楓花(中央小1年)、大塚葉那(同)、
工藤拓弥(軽小2年)、南慎朔(富小2年)、
尾谷春奈(中央小2年)、森山陽花(富小3年)、
鬼頭琴音(中央小4年)、野澤卓磨(同)、
岩崎涼(中央小5年)、板橋梨奈(上小6年)、
佐藤明香里(同)、桐木麻有(厚南中1年)、
長橋孝倫(同)、三好岳志(厚真中2年)以上15人
※敬称略、学年は3月現在

自然いっぱい未来の厚真を描く全作品をこぶしの湯に展示



春到来を告げる厚真カップ スタードームなどで

第十五回厚真カップ室内少年サッカー大会(同実行委員会主催・市原泰雄委員長)が三月八、九の両日、町スポーツセンターとスタードームで行われ、小学生八十六チーム、約七百人が参加し熱戦を繰り広げました。

春到来を告げる大会として定着している同大会は、今年で十五回目の記念大会。胆振管内をはじめ日高、石狩管内からも選手や保護者などの応援団が駆けつけ、両会場は熱気ムンムン。本町から厚真FCキッカーズの六年生、五年生、三年生などで構成された三チームが参加し、いずれのチームも善戦。五年生チームは、強豪チームに次々と競り勝ち、四大会ぶりに地元優勝の栄誉に輝きました。



選手宣誓をした澤田涼平くん(6年生)のプレー

優勝した5年生チーム



伊藤組土建(株)から体協へ 体育用具などを寄贈

三月十日、町スポーツセンターで豊川地区水路の建設工事を請け負っている伊藤組土建(株)(吉野龍男社長・札幌市)が、町体育協会(渡部孝樹会長)に行事放送用アンプとテニス用ネットを贈りました。同社の津久井俊幸所長が「地域のために役立てくれれば」と同協会に手渡すと、渡部会長が「貴重な用品を寄贈していただき感謝します」とお礼を述べていました。



どの料理もおいしそう 卒業記念バイキング給食

町学校給食センターでは三月十四日、中央小学校と上厚真小学校の六年生にバイキング給食を提供しました。同センターが卒業記念に毎年行っており、卒業生にとっては心待ちにしていた給食。齊藤由衣さん(上厚真小)は「種類も量も多くてビックリです。バイキング給食は中学三年生のときにもあるらしいのでその時が待ち遠しいです」とおいしそうにはおぼっていました。



大西さんへ藤原管理者から感謝状が贈られる

消防人として53年。大西さんに感謝状

3月31日をもって厚真消防団を退団された大西武雄さん(表町)に、胆振東部消防組合藤原正幸管理者から感謝状が贈呈されました。

大西さんは、昭和30年4月に厚真村消防団入団以来53年にわたり、消防団員として地域住民の生命・財産の保護に尽力されました。この間、平成7年4月に厚真消防団第1分団長、同10年12月に同副団長、同14年4月からは同団長を歴任。また、平成13年に消防庁長官表彰として永年勤続功労章、同17年には北海道知事から功労章を受章するなど数々の荣誉に輝いています。

学習は元気の源。町高齢者大学修了式

平成19年度町高齢者大学の修了式が3月27日、総合福祉センターで行われ約40人の学生が出席しました。今年度、同大学に87人が入学し、健康管理、交通安全、研修旅行などテーマに沿って月1回のペースで学習を深め、14人の学生が皆勤し、畑嶋副町長から皆勤賞が贈られました。

畑嶋副町長が「皆さんが元気に大学に通っている姿を見て、明るさや元気、勇気を与えてくれたことに感謝します。新年度の入学をお待ちしています」とあいさつ。式の最後を蛍の光の合唱で締めくくり、続いて行われたお別れ会で生徒たちは、新年度の再会を約束していました。



皆勤者を代表して講神さんに皆勤賞を授与



中島次長による講演を熱心に聞き入る参加者

孫、子どもの世代のことを視野に

財務省北海道財務局主催による「財務行政懇話会」が3月27日、総合福祉センターで行われました。この懇話会は、同局が地方を訪れ業務の紹介や日本の財政の現状と課題などを説明し、住民とひびを交えて対話を行うもの。中島一良財務部次長による「日本の財政を考える」をテーマにした講演では、「高齢化によりますます歳出における社会保障関係費は増加し財政を圧迫する。我々の世代がサービスを受け、孫や子どもの世代にその負担を先送りすることは大きな問題。今、何をすべきかしなければならぬのかを考えることが我々の責任」と力説していました。

G8まで100日。こぶしでキャンドル点灯

北海道洞爺湖サミットの開幕まで100日となった3月29日、こぶしの湯あつまで約400個のペットボトルキャンドルがやさしい光を照らし出しました。このキャンドル点灯は、サミットで地球温暖化など環境問題が話し合われることをふまえた、胆振管内の自治体が取り組んだもの。本町では役場職員有志が、ペットボトルを半分に切りふちを銀色のテープで補強しキャンドルを作製。ロウソクは、森本國男さん(本郷)から寄贈されました。夜のとぼりが降って「G8サミット」の文字がテープに乱反射し幻想的に浮かび上がり、同施設を訪れた方々の目を楽しませていました。



前庭に浮かび上がるキャンドルのともしび